

DxO PhotoLab



リリースノート

バージョン 4.2

Mac

必要構成

- Intel Core™ i7 以上 推奨
- 8 GB の RAM (16 GB 推奨)
- 4 GB の空き容量のあるハードディスク (6 GB 推奨)
- macOS 10.14.6 (Mojave)、10.15 (Catalina)、11.0 (Big Sur)
- GPU アクセラレーションを利用するための 512 MB 動画メモリーを搭載したグラフィックカード
- DeepPRIME を利用するためには、AMD Radeon™ R9 M290X あるいは、それ以上の機種が必要

DxO PhotoLab 4.2 の新機能

- 新しくサポート対象に追加されたカメラ
 - Nikon Z7 II
 - Olympus PEN EL8
 - Olympus PEN EL9
 - Panasonic G100
 - Sony ZV-1
 - Canon M50 Mark II
 - バグ修正
 - サムネイルの動作が以前の状態に戻され、改善されました
 - 異なる履歴パネルの状態を何度も移動した際に機能しなくなる問題が解決されました
 - PhotoLab 外でファイル名を変更した場合に、関連するバーチャルコピーが壊れなくなりました
 - マイナーバグが修正されました
-

DxO PhotoLab 4.1.3 の新機能

- **DxO Advanced History**
 - 実行した操作を最適に反映するように、一部のラベルが改善されました
 - FilmPack と ViewPoint に関連した補正が正確に識別されるようになりました
 - フォトライブラリ：グリッドモードのサムネイルの表示が改善されました
 - **バグの修正**
 - ナビゲーションパレットの [移動する/ズームする] が翻訳されました
 - 画像を最初に選択したときから [維持する/却下する] が正しく機能するようになりました
 - Olympus E-M5 MkIII のファイルがサポートされるようになりました
 - PNG 形式のファイルが透かしでサポートされるようになりました
 - プリセットを使って適用した透かしのサイズが、画像の向きに応じて変わらなくなりました
 - プリセットエディターでのトーンカーブの編集が正しく機能するようになりました
 - Lightroom へのエクスポートが正しく機能するようになりました
 - 部分調整のブラシツールと自動マスクで、新規マスク作成時にエラーメッセージが生成されなくなりました
 - アプリケーションの安定性の改善により、アプリケーションを予期せず終了する複数のケースが解決されました
 - マイナーバグの修正
-

DxO PhotoLab 4.1.2 の新機能

- **バグの修正**
 - 写真アプリケーションを使って画像を再び正しくシェアできるようになりました
 - Olympus EPL 10 で撮影された RAW ファイルがサポートされるようになりました
 - 同じパレットで複数のインスタンスが存在する場合、キーワードリストが適切に同期されるようになりました

- 名前編集の一部のケースで、バーチャルコピーが「マスター」の名前を維持するようになりました
 - PhotoLab の印刷機能を使った PDF コンタクトシートの作成管理が改善されました
 - トーンカーブツールが、プリセット編集モードの影響を受けなくなりました
 - フリーズや予期しない停止が発生していた一部のケースで、アプリケーションの安定性が改善されました
 - マイナーバグが修正されました
-

DxO PhotoLab 4.1.1 の新機能

- **DxO Colorwheel** : メインウィンドウで選択したカラー領域を表示するためのコンテキストテキストが見直されました
 - **バグの修正**
 - 比較ツールで彩度過多の参照画像を表示しなくなりました
 - フィルムストリップと Finder のフォルダ間を移動させる場合、サイドカーのファイルがソースファイルを正しくトレースするようになりました
 - メールへのエクスポート時にアプリケーションが不意に終了しなくなりました
 - クロップした場合、HSL ツールの色相スポイトで正しくカラーサンプルを採るようになりました
 - DxO Advanced History のグループエントリーの表示が修正されました
 - トラックパッドで再びメインウィンドウを縦にスクロールできるようになりました
 - マイナーバグが修正されました
-

DxO PhotoLab 4.1 の新機能

- **DxO Colorwheel** が改善され、選択したカラーゾーンを表示できるようになりました
 - **Advanced History** で、エントリ表示が明確になりました
 - 画像のプロパティ表示にフローティングウィンドウが追加されました
 - **新しいカメラのサポート**
 - Lumix S1H
 - Mavic Air 2
 - Nikon Z6 II
 - Sony A7S III
 - Sony A7C
 - **バグの修正**
 - マイナーバグの修正
-

DxO PhotoLab 4.0.2 の新機能

- **バグ修正とパフォーマンスの改善**
-

DxO PhotoLab 4.0.1 の新機能

- **バグの修正**
 - クロップツールが正しいマスクで開くようになりました
 - 部分調整のインジケータの表示/非表示が一致するようになりました
 - デモモードでバッチの名前の変更が適切に有効化されるようになりました
 - フルスクリーンモードで、レーティングコントロールが適切なヒットゾーンに表示されるようになりました
 - PL3 から PL4 の移行がより迅速に実行されるようになりました
 - マイナーバグの修正

DxO PhotoLab 4 の機能

- **RAW と JPEG 画像の高画質な仕上がりをワンクリックで実現できます** : DxO PhotoLab は、インテリジェントな自動補正を実現する総合的なソリューションです。もちろん、手動で調整することもできます。
- **DxO DeepPRIME** : 人工知能が RAW 画像のノイズ除去と変換を革新し、2つを同時に実行して素晴らしい結果を実現できます。畳み込みニューラルネットワークに属する DxO DeepPRIME は、DxO のラボで 15 年以上にわたり実施されてきた計測とキャリブレーションで収集された数十億の学習サンプルで強化されています。写真の品質は劇的に改善され、特に、低光量で撮影された写真や小型ピクセルサイズで撮影された写真、旧世代のカメラで撮影された写真でその効果を発揮します。
- **DxO Clearview Plus** では、強いハロー効果を発生させることなく白いモヤを効果的に除去して部分的なコントラストをスマートに強調し、写真の仕上がりの可能性を広げます。
- **DxO Smart Lighting** では、写真のダイナミックレンジを最適化し、露光アンダー/露光オーバーの領域のディテールを回復できます。
- **DxO Smart Workspace**: DxO Smart Workspace では専用のツールバーのダイナミックなフィルタシステムを使い、ツールパレットの表示/非表示をワンクリックで切り替えることができます。補正グループ(ライト、カラー、ディテール、ジオメトリ、部分調整)、アクティブな補正、お気に入りのパレットの 3 つのモードの切り替えが可能です。さらに、専用の検索フィールドを使って、特定のツールを検索して、該当するパレットを瞬時に表示することもできます。
- **修正ツール**では、マニュアルで再配置したり、複製/修正モードの選択、ブラシのぼかしと不透明度の管理が可能です。
- **U-POINT®テクノロジーを活用した部分調整の総合的なソリューション** : ブラシ、段階フィルター、コントロールポイントを使って、簡単にパワフルに写真を部分的に編集することができます。
- **歪み補正と光学シャープネス補正** : 測光とキャリブレーションにおける DxO の評価の高い専門性を活用した補正で、お使いのカメラで撮影された画像の最高のディテールを引き出すことができます。
- **DxO Instant Watermarking**: この新ツールでは、写真にテキストや画像を組み込み、結果を瞬時にプレビューできます。配置、方向、スケール、余白、画像の不透明度、テキストの色などもすべて設定可能です。画像のエクスポート時に、透かしをアクティブにするかどうかを選択できます。ビジュアルサインやテキストを最適に統合できるように、7つの統合モードを使用できます。
- **写真名の一括編集**: DxO フォトライブラリまたは [設定] タブの画像ブラウザから複数のファイルを直接選択して、ダイアログボックスで以下を実行できます。

- 選択したファイル名内でテキストを検索/置換
 - 既存のファイル名の前または後ろにテキストを追加
 - 選択したファイルの名前の変更や、名前の前または後ろにカウンターを追加
- **DxO Advanced History:** 新しい履歴パレットでは、各ステータスの横に補正值および補正前の値との差を表示します。この機能により、実行した変更全体を把握しながら、編集の異なるステータスを確認することができます。複雑な補正の場合 (プリセットの適用またはホワイトバランスパレットを使った複数の設定など) でも、履歴パレットにはグループ化した補正履歴が表示され、必要に応じて確認できます。
 - **設定の選択コピーペースト機能:** ユーザーは [設定] タブの画像ブラウザから、1 枚の写真を右クリックし、1 枚または複数の写真に適用する個別の処理設定をカテゴリーごと (光、色、ディテール、部分調整、ジオメトリ、透かし) に選択できます。
 - **同時マルチエクスポートと新しい DNG エクスポートのフォーマット**では、ワークフローを最適化し、サードパーティのソリューションとの互換性を保証します。同時に複数の出力ファイルを作成でき、新しい DNG エクスポート (画質を最大化するために光学補正のみを適用) を使用したり、元のファイルのダイナミックさや色を維持することができます。
 - **HSL ツールと DxO ColorWheel** では、比類のない精度と柔軟性でカラーを調整できます。設定するカラーレンジを手動で選択するか、新しい色相ピッカーを使用して、自動的に定義できます。
 - **キーワード管理と DxO フォトライブラリ** : これまでにないやり方で写真を検索、ソート、整理できます。
 - **可能性がさらに広がったカラー管理** : ICC プロファイルに加え、DCP カラープロファイルがサポートされたことで、忠実にカラーを再現できます。
 - **新しいデバイスをサポート:**
DxO PhotoLab 4 では、Canon EOS R5、EOS R6 および EOS 850D、Nikon D6 および Z5、Olympus OM-D E-M10 Mark IV、Panasonic Lumix S5 がサポート対象に追加されました。現在ご利用いただけるカメラとレンズの組み合わせは、60,000 以上にのぼります。

既知の制約事項

- パース歪み補正ツールとボリュウム歪像補正ツールを使用するには、DxO ViewPoint プラグインが必要です。
- データ量を削減する圧縮方式 (Lossy DNG) を使った DNG 形式のファイルは、サポートされていません。
- Adobe Lightroom または Adobe DNG Converter 以外の圧縮媒体で作成された DNG ファイルのサポートに関しては、いかなる保証も与えられていません。サポート対象外のカメラに対応した DNG ファイル (変換で作成されたか否かにかかわらず) はサポートされていません。